



安全・安心をお届けいたします

グリーンプロジェクト情報 第10号

きらきらEyeランド

JA庄内みどり

発行：庄内みどり農業協同組合

協力：酒田農業技術普及課

出穂かなり早い！斑点米カメムシ類多い！ 高温時の水管理の徹底と、カメムシ補完防除の検討を！

今年は、7月中旬からかなりの高温で経過したため「はえぬき」の出穂期は過去、最も早く7月30日頃となりました。

仙台管区气象台の1か月予報（7月29日発表）によると、今後1か月の気温は引き続き高いと予想されています。出穂後20日間の平均気温、最低気温が高いと白未熟粒の発生が懸念されます。天候に応じて、よりきめ細やかな水管理を徹底しましょう。

病害虫予察情報第5号によると、**斑点米カメムシ類が「多い」、穂いもち・紋枯病が「やや多い」**となっております。圃場の見回りを行い、病害虫の発生が確認された場合は、個々に補完防除を実施しましょう。

出穂がかなり早まり、出穂後も高温で経過しておりますので、刈取は早まると予想されます。適期刈取に向けて、コンバイン・乾燥機等の点検整備などは早めに準備しましょう。

◎出穂盛期（平坦部）

※つや姫については予想出穂期

ふくひびき	はえぬき	ひとめぼれ・雪若丸	つや姫
7/26	7/30	8/1	8/7

◎7月30日のJA展示圃生育状況（ ）内は平年対比

品 種	草 丈	茎 数	葉 齢	葉 色
はえぬき	86.6 cm (112)	517本/m ² (101)	12.5 (+0.1)	38.3(-0.3)
ひとめぼれ	89.0 cm (109)	464本/m ² (106)	12.5 (-0.1)	32.2(-3.5)
つや姫	83.8 cm (106)	459本/m ² (105)	12.6 (+0.1)	33.2(-2.7)
雪若丸	77.1 cm (—)	460本/m ² (—)	13.0 (—)	40.0 (—)

※葉色は葉緑素計（SPAD）の測定値

7月30日の生育状況は、草丈は長く、茎数は平年並みからやや多く、管内の出穂期は平年より6日程度早まりました。

技、其の一 高温による品質低下を防ぐ為、徹底した水管理を！

出穂期以降に高温が続いていることから、胴割粒・白未熟粒による品質低下が懸念されます。管内では、過去に高温による品質低下が発生しています。（右図）

収穫期まで気を抜かず、天候に即した水管理で品質向上に努めましょう。

【過去の高温年での
酒田飽海地域の一等米比率】

平成 6年	45%	（乳白粒等の多発）
平成11年	6%	（乳白粒等の多発）
平成18年	87%	（胴割粒の多発）
平成22年	75%	（乳白粒等の多発）

- ・ 胴割粒の発生は、出穂後6日～10日頃の高温が最も影響します。高温時は水を張ったままにせず、水の入れ替えにより、圃場内の温度低下に努めましょう。
- ・ 出穂後20日間の平均気温と最低気温が高い場合、白未熟粒の発生が増加します。夕方灌水→自然落水→夕方灌水を繰り返す「**間断灌水**」を行いましょう。（気温が下がる夕方以降に入水しましょう。）

《登熟期の水管理》

出穂後日数	圃場の土壌水分保持の目安
～20日	くぼみ、作溝等に水が残っている程度。 それ以上は乾かさない。
21日～30日	足を入れて、かかとの部分に水がにじみ出る程度。
31日以降	黒乾亀裂（一部ひびが入る程度）。※白乾亀裂までにしないこと。但し、刈取り間近になったら、作業に支障のない程度まで乾かす。

◇出穂後30日間は玄米形成に最も重要な時期です。**2湛2落（間断灌水）を基本としながら、収穫時まで水を切らず根の活力維持に努めましょう。**

◇庄内地域は海洋性の気候により、日中と夜間の気温差が小さい地域です。高温時は**各地区の給水ルールを守り夜間灌水を基本とし**、日中と夜間の温度較差により登熟を促進しましょう。

◇出穂時に夜間の低湿度とフェーン現象が重なると、白穂が発生する恐れがあります。高温、強風時（フェーン現象）には、稲体の消耗が大きくなるので、**事前に湛水し稲体を保護**しましょう。

◇完全落水は出穂から**30日以降を目安とします**。秋の収穫作業を容易にするための早期落水は登熟を妨げ、品質収量低下につながってしまいますので、最後まで水を切らないように注意しましょう。

技、其の二 斑点米カメムシ類の発生多い！

① 斑点米カメムシ類

病害虫発生予察情報（7月28日現在）では、発生量は「多い」となっております。カメムシ被害防止の為には、**8月中の草刈りを控え**、圃場内への進入を防ぎましょう。

雑種地等の例年発生が多い所は、補完防除の検討をしましょう。



アカスジカスミカメ 体長：5～6mm
最近急増している種。ヒエ、ホタルイの発生が多い圃場で多発生傾向！

（裏面に続く）

② 穂いもち

穂揃期は、穂いもち（特に穂首いもち）感染の危険性が最も高い時期となります。上位葉に葉いもちが見られる圃場では、穂いもちの発生が懸念されます。圃場を見回り、追加防除を実施しましょう。特別栽培米については、営農指導員へご相談下さい。

技、其の三 適期刈取りに向けて！

今年はお穂がかなり早く、出穂後も高温で経過しているため、刈取りが早まるものと思われます。収穫作業に備え、早めの機械点検等を心掛け、適期刈取りに向けて準備を進めましょう。

<大豆> 大豆の管理はこまめな巡回と適期防除を！

今年のお豆の開花期は平年並～やや早い状況となっておりますが、は種時期により開花期に差が見られます。現在の生育は例年より良好に推移しております。

今後、高温の日が続くとジャガイモヒゲナガアブラムシの急激な発生が懸念されますので、こまめな圃場巡回と早期発見・早期防除に努めましょう。

品 種	リュウホウ	エンレイ	里のほほえみ
開花期	7/25頃	7/27頃	7/29頃
防除適期	紫斑病 開花期25日後～35日後		
	マメシンクイガ 1回目 8月25日頃 2回目 9月5日頃		

※紫斑病防除は莢にも薬剤が付着するよう丁寧に散布しましょう。

※マメシンクイガの発生は毎年8月末～9月上旬です。適期防除を行いましょ。

※アブラムシ防除は葉裏にも薬剤が十分かかるよう散布しましょう。

※防除薬剤については、「大豆生産基準」に基づき指定薬剤を使用しましょう。



気象変動に負けない！庄内みどりのつや姫・雪若丸

つや姫・雪若丸情報コーナー



○ 出穂期には灌水管理を！

出穂期は、特に水分を必要とするため、灌水管理としてスムーズな開花受精を促しましょう。出穂期以降は間断かん水（2湛2落等）で登熟をサポートしましょう。

○ 「つや姫」は登熟期の葉色診断で玄米粗タンパク値のチェックを！

「つや姫」の穂揃期はSPADで「35以下」、出穂20日後は「32以下」が目安です。

○ 落水時期は出穂後30日以降に！

早期落水は品質の低下を招きます。落水時期は、出穂後30日以降としましょう。

台風接近時の対策

台風が周期的に発生する時期になりました。大雨並びにフェーンによる被害を防ぐため、台風の接近が見込まれる場合は早めに圃場への入水をお願いします。



夏期のアスパラガスハウス栽培の管理情報

1. 換気

ハウス内温度が高くなると若茎の穂先が開きやすくなるので、ハウスサイドの開放以外にも、ハウス入口や妻窓を開けてできる限り温度上昇を抑える。

2. 灌水

(1)土の乾き具合を見ながら、適宜灌水して草勢を維持する。

(2)土壌水分は、堆肥マルチ下の土を握ったとき土が崩れにくい状態を保ち、かつ、畝間の土壌表面が乾かない状態を維持する。

・晴天が続く場合は頻度を多くし、乾湿差を出さないように注意する。

(3)早朝または夕方に灌水する。夕方に行うと夏場の夜の地温を下げるができる。

3. 茎葉管理

(1)立てた茎葉は倒れないように上部にマイカー線等を張り倒伏を防止する。

(2)下枝：地際から70cmくらいまでの下枝や、その基部から発生する枝は除去して、日当たりや風通しを良くする（若茎の着色促進、病害の発生防止）。

(3)側枝：通路に垂れ下がり、防除や若茎への日当たりを邪魔する側枝は、必要に応じて葉先を切って整理する。

※収穫時に葉先が眼や顔などに当たらないように注意する。

(4)枝の除去作業は、切り口が夕方まで乾くように、晴れた日に行う。

4. 防除

(1)収穫終了期までは15日間隔を目安に薬剤防除を行う。

(2)薬剤は作用性の異なるものをローテーションで散布し、薬液は茎葉だけでなく、株元にかかるように散布する。

(3)茎葉の整理を行った後には、殺菌剤を予防散布する。

(4)薬剤防除とあわせて耕種的な対応も行う。

①圃場の排水対策を行う

②過繁茂を避け、適正立茎数(収穫1年目は3～4本/株、2年目以降は10～11本/m)を維持する

③倒伏防止に努める

④下枝を整理して、通風、採光を良くする

⑤病茎葉は速やかに圃場外に出す

⑥泥はねを防ぐため、堆肥マルチを行う

5. 追肥

(1)草勢を見ながら即効性の粒状肥料や液肥などで、10a当り窒素成分で1回2～3kg程度を7日～14日おきに施用する。

(2)施肥の位置は畝の肩から通路までの部分に行う。

★次号の発行は9月10日です！